

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 10月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	1495100057		
法人名	株式会社 ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート川崎		
所在地	神奈川県川崎市幸区下平間357-2 (電話) 044-520-0311		
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市港北区新吉田5丁目76-35		
訪問調査日	平成19年9月12日	評価確定日	

【情報提供票より】平成 19年 8月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13人	常勤	9人, 非常勤 4人, 常勤換算 9

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建て	1 階	~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	有(円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 6日 現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	11 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.3 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川崎セツルメント診療所・日航ビル歯科室
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ・JR南武線鹿島田駅より徒歩14分の商工住が混在する市街地に立地し、併設の小規模多機能ステーションと施設の一部を共有している。
- ・職員の育成については、ホームの独自理念に「職員全員が介護のプロと自負し、絶えず勉強を怠らない」と謳われ、年間研修計画に基づき拠点会議で実践している。また、新人職員は内部研修に加え隔月に法人本部研修もあり、サービスの質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。
- ・当ホームは、併設の小規模多機能ステーションと協力連携して、それぞれの機能を活かしながら地域の福祉拠点となることを目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	・平成18年8月開所のホームで、初回評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	・初めての外部評価受審であり、各ユニットの常勤職員と管理者が連携して取り組んだ。 ・今回の自己評価作成での気付きを、職員会議で検討したり職員の研修に組み込んで、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	・平成19年3月と9月に運営推進会議を開催している。会議の参加メンバーは利用者と家族の代表、併設施設の家族代表、区役所職員、地域商店主、協力医療機関看護師、事業所の職員である。 ・主な議題は事業所のサービス内容や防災訓練などであり、「健康診断の実施、口腔ケアの徹底、行事の立案」の提案を受けて実践につなげている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	・家族の意見や苦情については家族の来訪時に聴取し、出された意見や要望は職員会議で検討し共有化している。 ・契約時に重要事項と共に苦情受付窓口を説明し、外部の苦情受付窓口を各フロアの掲示板に掲示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	・運営推進会議の委員や近隣に居住する職員を通して地域との連携を図り、ボランティアの受け入れにつなげている。 ・近くの公園に散歩に行き、遊んでいる保育園児たちと触れ合ったり、地域のスーパーや商店に買い物に出かけ、挨拶や会話を交わしている。併設の小規模多機能ステーションの利用者やその家族とも交流している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所開設時に作成した理念「家族と地域との結びつきを大切に、利用者が家庭的な雰囲気の中で生活する」を掲げ、利用者が地域の一員として生活することを目指している。更に、安心してサービスを受けるために、介護のプロとしての職員のあり方(7項目)を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・各階のエレベーターホールの掲示板や事務室に理念を掲示し、毎月開催する拠点(=職員)会議で理念の具現化を検討し共有化している。 ・利用者一人ひとりの気持ちを大切にした支援への取り組みを、職員間で話し合い理念の実現に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内会には加入していない。地域選出の運営推進委員を通して、町内会との連携を図っている。 ・散歩の途中で出会う近隣の方と挨拶を交わし、買い物は地元の商店を利用し、隣接の喫茶店でお茶を楽しんでいる。近隣居住の職員が多く、知り合いの歌や踊りのグループをボランティアとして受け入れている。	○	・自治会への加入により地域との交流を深め、ホームが目指す地域密着型の事業所として、積極的な地域活動への参加を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・各フロアーの職員2名が記載した自己評価票を参考に、管理者がまとめ作成した。管理者は自己評価に取り組む中で気付いた改善点について、職員会議で検討したり、今後の研修計画に組み込んでいる。	○	・全職員に評価の意義を周知し、それぞれが自己評価に参加することで課題に気づき、質の向上につなげていけることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は利用者と家族の代表、近隣商店主、協力病院看護師長、区職員2名、グループホーム代表が参加し、平成19年3月、9月に開催している。「健康診断実施、口腔ケアの徹底、行事の立案」などの意見をサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・ホーム利用案内の説明や配布、質疑等で機会あるごとに川崎市や幸区役所を訪問し、サービスの向上を図るための情報を収集している。運営推進会議の報告や車両借り入れ依頼の相談で訪問し行政との協働関係に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	・毎月の出納報告時に、利用者個々の様子を一言添えて送付している。 ・家族の面会頻度が多く、来訪時に日々の暮らしぶりを伝え、健康状態の変容など緊急時は電話で連絡している。	○	・日頃の利用者の様子やホームの情報(行事など)を伝えるために、『ホーム便り』の発行が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の来訪時に意見や要望を聞きだす努力をしている。意見や相談事項は記録して、拠点会議で検討し運営に反映している。 ・利用者と家族が運営推進会議に出席し、意見や要望を述べる機会を持っている。	○	・家族が意見や要望を気軽に伝えられる「ご意見箱」の設置が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の突然の異動や離職で利用者にはダメージを与えないよう、法人本部と連携を取り合っている。 ・常勤職員の半数は設立当初から勤務しており、利用者は穏やかに生活している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修への参加機会は少ないが、外部講師による全職員参加の勉強会を毎月実施している。 ・新人研修は内部研修と隔月の法人本部研修がある。契約パート職員には定期的に面談を行い、経験に応じた育成計画を実践している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会に加入して、情報収集を図っている。 ・近隣に新設された小規模多機能施設の職員数名を実習に受け入れ、施設相互にサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・担当職員が家庭訪問して本人、家族の要望や不安を聞き取り、利用者の理解に努めている。 ・入居後しばらくの間は、面会の機会を多く持つよう家族に伝えている。職員は思いを汲み取ることに心がけている。先輩利用者が声を掛け、グループに馴染んでいく雰囲気ができている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員は人生の先輩である利用者から、様々な場面で助言を受けている。特に子育てに関する経験談に学ぶことが多い。 ・利用者は買い物や食事の準備、他の利用者への配慮など日常の暮らしの中でそれぞれの役割を持って、互いに支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居の際把握した生活暦や趣味、入居前の担当ケアマネージャーから得た留意点をもとに、日頃の利用者一人ひとりとの関わり(傾聴)を通して、快適な暮らしへの支援に繋がるようにカンファレンスで確認し、共有化している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人や家族の意向を、日常の会話や支援、ケア記録、家族面会の際などから把握し、それらを反映させた介護計画を作成し、職員が共有している。 ・介護計画は家族の来訪時に相談、提案して同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・毎月、個々の利用者の課題を見直している。心身の変化が生じた場合は、その都度家族に報告し同意を得て関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・協力病院や近隣医院への通院には職員が付き添うなど、家族の要望に沿って柔軟に支援している。 ・面会時間の設定はあるが、家族の都合に合わせてその都度対応している。 ・電話による認知症の介護相談に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医が月2回定期的に往診している。入居前のかかりつけ医に受診している利用者や併用している人もいる。受診結果は、必要に応じて医師が家族に連絡している。 ・老人保健法による川崎市の検診を定期健康診断とする旨、家族の同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・開所後間もなく重度化した利用者があり、本人、家族と終末期のあり方を相談し、協力医と家族、各種専門職員が連携を取り、ターミナルノートを作成して対応した。現在はその経験に基づき、ターミナルノートをテキストとして全職員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者の尊厳に配慮した接遇や、プライバシー保護への心構えを記載した「サービススタッフの心得」を全職員に配布しているほか、運営規定にも明記し、拠点会議で話し合い徹底している。 ・個人情報に関する書類は施錠管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・利用者がその日をどのように過ごしたいのか、職員は会話や傾聴を通して汲み取り、一人ひとりのペースを大切にしている。 ・利用者の「買い物や郵便局に行きたい」などの要望には、本人の希望を尊重して管理者が付き添い対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
na					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材の購入、料理の盛り付けや片付けなど、利用者の力を活かせるように支援し、職員と一緒に食事を楽しんでいる。 ・新聞の広告を見て「これ、食べたいね」など、利用者の声を取り入れて手巻き寿司や豚汁を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者の入りたい希望を取り入れて、入浴を支援している。入浴を好まない利用者にも、週2日の入浴ができるように、順番を工夫したり、タイミングを見計らって誘っている。 ・同性介助の希望に応えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・会話や手芸、カラオケや職員と一緒に将棋をしたり歌を唄うなど、日々の生活を楽しむ工夫をしている。 ・個々の能力に応じて、洗濯物をたたんだり、買い物に出かけるなど、その人なりの役割を持って、張り合いや喜びを持てるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・買い物帰りに公園に立ち寄り、遊びに来ている保育園児との触れ合いを楽しんでいる。 ・時には等々力公園や平和記念公園にドライブしたり、季節ごとに初詣やお弁当を持って花見に出かけている。	○	・外気浴を兼ねて、敷地内で季節の草花を育て楽しむ工夫が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・危険回避のため家族の了解を得て、屋内の階段や玄関は施錠している。現在、見守りを強化し、鍵を掛けない介護のあり方について検討している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・会議で避難方法や用具の説明など、防災への取り組みを検討した。11月に消防訓練を予定している。 ・非常口誘導標識と消火器は各フロアにあり、建物外壁に火災報知器(放火対策として消防署より助言)を設置している。 ・災害時の備品については、法人本部で準備中である。	○	・運営推進会議の場を通して、地元自治会と防災協定が締結されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事、水分摂取表を作成し、大まかに毎日の摂取量をチェックしている。一人ひとりの嗜好を把握し、好みでない献立の時は代替食を提供して栄養管理している。献立は管理者が立て、カロリーはインターネットでチェックしている。	○	・栄養バランスやカロリーチェックについては、専門家の助言を得られることが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有空間は日当たりがよく、清潔に保たれている。日々の余暇活動で制作した作品を飾ったり、レクリエーションの写真などが貼られている。 ・エレベーター前の共用ホールには畳を敷き、テーブル(冬季は炬燵)を置いて、利用者のくつろぎの空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時に馴染みのものを持参するように説明している。利用者は筆筒や机、写真、座布団などを持ち込み、一人ひとりの居心地のよい居室作りをしている。床に畳を敷いて和布団を使う利用者もいる。		